

# The L and R Problem 上演にあたって

長針真奈美

2011年3月11日を、私はドイツ・ベルリンで体験した。

ニュースで初めてその映像を見たときには、これが日本で起っていることなのかと絶句した記憶がある。日本人に限らず、この未曾有の自然災害と人的災害はたくさんの人々に衝撃を与えたようである。というのも、事故当時は人に会い、日本人であるとわかれば必ずといって「(日本は)広島や長崎の経験があるにもかかわらずなぜあんなに原発があるのか」と質問されたものである。恥ずかしながら、政治にはどちらかといえば関心が薄く、日本の歴史は学生時代から大の苦手だった私には、この質問に答えられるだけの知識はなかった。

そして、私にとって最も衝撃的だったのは、災害や爆発の映像そのもの以上に、国や権威ある人々が国民を守らない、その姿だった。当時ドイツのテレビでも放送された「放射線はニコニコしている人には影響がない」という不可解な理論を展開したり、原発は安全といていた御用学者たちがそそくさと表舞台から消えたりと、無責任極まりない大人たちの姿に憤り、そしてなぜこのようなことが起きているのか理解に苦しんでいた。

これらの疑問が私の「旅の出発点」となった。

いろんな出来事を紐解いていくうちに、この旅は第二次世界大戦にまでさかのぼることとなった。そして、そこを出発点としたとき、現在に至るまでに起こっている不可思議な事柄が自分なりに「なるほど」と納得できるようになったのである。

1945年8月15日、国民ははじめて神(天皇)の声を聞き、その神は敗戦を告げたのである。墜落した「太陽」--- 国民は、闇を照らす「新たな輝き」を渴望していたのではないか。そして「経済成長」という言葉が、いつしか「新たな輝き」として置き換えられ、私たちはまっしぐらにこの「人工的な太陽」を崇拝するようになったように思う。

「輝き」とは、経済活動の優位ではなく、国民一人ひとりが安心して暮らせる世の中が生み出す一人ひとりの幸せによって生まれるものではないのだろうか。

「The L and R Problem」は初演2013年、その後2015年とベルリンで2回演じた作品である。歴史を語る内容ではあるが、歴史の勉強ということではなく、日本から遠く離れた地に住みながら、自分が生まれて育った国に思いを寄せ、自分なりの311ストーリーに仕上げたつもりである。またオリジナル45分のところを今回は15分に短縮しての上演となる。全く異なる意見をお持ちの方もいらっしゃると思うが、一個人の視点としてご笑納いただければ幸いである。

2020年3月

Manami N.  
www.manami-n.com

作品引用元:  
書籍「闇に消される原発被爆者」樋口健二 / 映画「山谷 やられたらやりかえせ」佐藤満夫、山岡強一共同監督 / 写真集「山谷」新納翔 / 映像「NHKスペシャル731部隊の真実〜エリート医学者と人体実験〜」 / 混声合唱組曲「悪魔の飽食」池辺 晋一郎作曲 森村誠一 原詩 神戸市役所センター合唱団演奏

主催: 認定特定非営利活動法人FoE Japan 後援: ドイツ・ベルリン市 / ハインリッヒ・ベル財団

 FoE Japan

Senate Department  
for Culture and Europe

 Berlin

 HEINRICH BÖLL STIFTUNG  
SCHLESWIG-HOLSTEIN

